令和元年度　学校関係緑化コンクール（学校環境緑化の部）講評

〇教科の特性を生かした形での活動が多く見られた。小学校では生活・理科・図工などの教科科目においての特色ある活動があり、それぞれの学校での工夫が見られた。緑化活動の一環として植物を植えるだけでなく、教材の一部として活用する学校等もあった。

〇中学校・高校となると一部の教科・科目または特別活動などでの取り組みが多くなってきている。

〇昨年度までの内容と比べて、学校や地域の特性をいかした取り組みが少なく感じた。また、校内の樹木について「シンボルツリー」として位置づけられているものの報告が少なく感じた。

〇「職員の研修」については関係機関や地域の人材を活用して、より実践的に取り組んでいる学校もあったが、研修を特に実施していない報告もあった。

〇小規模校・大規模校、それぞれの特色を生かした活動がありよかった。一方で児童・生徒数や職員数によって活動の幅にちがいがあることを感じた。

〇「花壇」や「プランター」を使用しての草花の栽培等が中心となっていたが、「樹木」を活用した活動があると、さらによいものになると感じた。

〇　例年の内容であるが、野菜などの「収穫」を伴う活動が多く報告されている。収穫を伴う「食育」としての活動としてとらえて審査をした。

〇　「樹木マップ」や「校内における配置図」は作成してあったが、おおまかなものが多く、審査の際にイメージがわかなかった。

〇　環境教育の幅が広がり、地域での奉仕活動や清掃などについても報告されていたが、「学校関係緑化」とのつながりについては疑問を感じた。